

(電力供給側の取り組み)

- 風力発電や地熱発電の導入では全国トップランナー
 - ・ 風力発電の出力は全国3位、地熱発電の出力は同2位
 - ・ 大型洋上風力発電の運転も開始
- 先行きも洋上風力発電や地熱発電を中心に導入が進む
 - ・ 洋上風力発電は一般海域で4件計画されているほか、浮体式洋上風力発電の導入に向けた動きも開始
 - ・ 地熱発電は湯沢市で3件計画 (1-1・1-2：本編目次<以下同様>)

(電力系統)

- 再エネ発電の導入拡大等に伴い送変電設備の容量が不足
- 電力系統の増強と効率的利用が進む
 - ・ 系統増強工事(出羽幹線の新設等)
 - ・ 既存の送変電設備を最大限活用 (2-1・2-2)

(県経済における需要創出)

- 発電事業への直接的な参入
 - ・ 出資、部品製造、設置、O&M等
- インフラ関連の受注
 - ・ 基地港湾等
- 人材育成への参入
- インフラ関連の受注
 - ・ 送電網等
- 人流増加を通じた個人消費関連業種への波及

様々な分野での需要創出に繋がりは始めている
(短観でも確認)

(4-1~4-5)

再エネ発電の導入が進んだ背景

- ・ 環境：恵まれた風況、高温の地熱地帯
- ・ 自治体の後押し：県有地の提供、利害調整への関与等
- ・ 地元金融機関の後押し：積極的な融資、発電事業への関与 (1-3~1-5)

(電力需要側の取り組み)

- 電力は、周波数を一定に保つため常時需給のバランスを保つ必要
- 再エネ発電は季節や天候等により発電量が変動し、現在、火力発電を中心にカバー
- 今後、再エネ発電の導入が増える中、出力制御量が増加する可能性
- CO2排出量削減の観点からも、電力需要側の取り組み(DRや蓄電システム)に注目 (3-1~3-4)

(電力供給側と連携した)電力需要側の取り組み

- ・ DRや蓄電システムの活用
- ・ 自家消費等によるエネルギー消費・変換(グリーン水素の製造に向けた計画等)
- ・ 県による「再エネ工業団地」の造成、DRが可能な企業の誘致等

より幅広い分野での需要創出と県内企業の需要の取り込みに期待

(4-6)